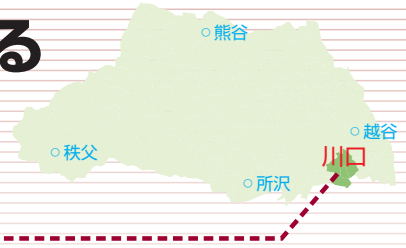


イチ押し

## 地域経済の活性化を語る

県内首長に聞く 経済リレーインタビュー⑥

川口市 岡村幸四郎 市長 (59歳)



「市内の中小企業を振興させるため実施計画を策定した」と話す岡村幸四郎市長

ご存じの通り、本市は昨年10月に鳩ヶ谷市との合併を果たし、1年が過ぎました。合併当初は、市行政が支障なく運営できるのか、若干の不安もありましたが、お陰さまでさしたる支障もなく新たな市として推移しています。私が、合併で何よりも重視したのは新市としての一体感で、これを醸成するにはどうしたらよいかと考えました。そこで歴史を振り返り、共有の財産とは一体何だろうか、との思いに至りました。幸い、川口も鳩ヶ谷も江戸時代から、日光御成道の宿場町として栄えてきた歴史があります。

宿場町を軸として地域の一体感を醸成するには、御成道を舞台に何かイベントを企画してはどうかという話になり、それが11月11日に行われる『川口宿 鳩ヶ谷宿 日光御成道まつり』です。徳川将軍の日光社参行列を再現する祭典で、当日は8代将軍吉宗をモデルに、俳優の松平健さんを招いて盛大に繰り広げることにしました。歴史的なイベントはどこでも実施されていますが、社参行列が再現されるのは300年ぶりということで、かなりのインパクトがあるでしょう。このイベント

を契機に、市民の郷土愛を育みながら地域経済を活性化させ、将来につなげていきたいと思っています。観光資源として全国に発信する価値もあるので、今回を機に継続性を持たせたいと思っています。

今、地域経済の活性化と言いましたが、今年4月に『川口市産業振興指針実施計画』を策定しました。この計画には産業クラスターの構築や受発注に関する仕組みづくりなど短期、中期、長期にわたって実施する10の施策が盛り込まれています。制度設計中の施策もありますが、既に実施しているものもあり、例えば市内の消費を喚起するため川口商工会議所と鳩ヶ谷商工会で、総額8億円のプレミアム付き商品券を発行し、市ではプレミアム分、事務経費などを支援しております。ありがたいことに大変好評で、即日完売の状況です。今後も「お買物は私の街で川口で」キャンペーンを続けていきたいと思えます。

制度設計中の施策では、企業にも地域貢献活動を積極的に行って頂こうと『地域貢献企業認定制度』を創設し、検討会議を立ち上げました。いろいろな貢献の仕方がありますが、地域密着で貢献した企業を認定して、新たな資金融資制度の導入のほか、企業の地域貢献活動に対する支援制度を検討しております。また、市内には中小企業が多数集積し、海外に目を向けている企業も多く、商工会議所・ジェットロなどと協力して、そうした企業には海外への情報発信を積極的に支援。国内で頑張っている企業には、販路開拓や技術開発などのセミナーや相談会を開いて支援できるよう取り組んでいるところです。

商工業だけでなく、市内にはまだまだ農業を営んでいる方も多く、都市農業対策もまた重要で、先ほど話した10施策の中に含めました。農地というのは貴重な存在で、仮に大きな災害に見舞われた際には、避難場所にもなるなど極めて防災機能に優れています。農作

物を育てる作業は、子どもたちの教育にも非常に重要で、都市農業を復権・再生させることが大事でしょう。本市ではこれまで『川口の農業を考える有識者会議』を設けて、様々な施策を講ずるとともに全国的な『都市農業サミット』を開催してきましたが、その場を通して問題となったのが都市計画法の中には、“農地”という言葉が一言も入っていないということでした。農業や農地の復権を目指すには、こうした根本的な問題を声高に発言していくことが大切で、私は機会あるごとに問題提起をして参りました。

少し話は変わりますが、4年ほど前にインターネット上で、首都圏における住みたいまちランキングが掲載され、10位に私たちが住むこの川口がランクされました。そして昨年の4月には、経済雑誌の駅力ランキングで、JR川口駅がJR川崎駅に次いで2位となり、別の雑誌でも3位になっています。思うにJR川口駅東西口の再開発が終わって、街が活性化したことが大きな要因かもしれませんが、文化的要素も見逃せないと思います。文化度を図る良いバロメーターに図書館の充実が挙げられますが、2006年7月に東口再開発ビルの『キュポ・ラ』本館にオープンした『市立中央図書館』は、全国に自慢できる施設です。50万冊の蔵書を備え、年間140万人の入館者があり、来年9月には累計で1,000万人の大台に達することが見込まれています。『キュポ・ラ』内には映像文化を伝える『メディアセブン』があり、また映像産業拠点であるSKIPシティにも映像ミュージアムを備え、



11月11日に行われる日光御成道まつりのイメージ図

映画祭などのイベントが常時行われていますが、市民の間の強い知的・文化的欲求を、市長として肌身で感じているところです。

まだまだ、申し上げたいことはありますが、合併して1年を迎える川口市にとって、これまで以上に発展していくためには、地元金融機関である武蔵野銀行さんのご協力が欠かせません。日ごろ、本市の中小企業資金融資事業をはじめ、多方面でご協力を頂いているところですが、喫緊の課題として来年3月末で期限切れとなる『中小企業金融円滑化法』があります。同法の失効後も引き続きコンサルティング機能を発揮し、中小企業への積極的な経営支援を行って頂くことを強く望みます。また、ぶぎん地域経済研究所さんには、地元根ざした調査研究機関として、地元産業の将来展望を見据えた分析など、各種の情報を発信して地元経済を支えてほしいと願っています。今回は、私の高校・大学の先輩で、県議として同期でした久喜市の田中暄二市長にバトンタッチします。

市の概要	川口市	鳩ヶ谷市	合計
人口（平成22年国勢調査）	500,598人	60,908人	561,506人
世帯数（同上）	209,534世帯	24,590世帯	234,124世帯
平均年齢（同上）	42.7歳	43.6歳	42.8歳
生産年齢人口比率（同上）	67.6%	64.3%	67.2%
面積（同上）	55.75平方キロメートル	6.22平方キロメートル	61.97平方キロメートル
名目市内総生産（平成21年度）	1兆2,379億8,000万円	1,292億2,600万円	1兆3,672億600万円
事業所数（平成22年工業統計）	1,545	149	1,694
製造品出荷額等（同上）	3,957億5,565万円	517億5,606万円	4,475億1,171万円
事業所数（平成21年経済センサス）	22,062	2,507	24,569
年間商品販売額（平成19年商業統計）	9,594億9,883万円	692億546万円	1兆287億429万円

\*平成23年10月11日に合併したため、両市の概要を併記した